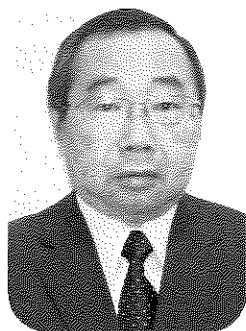


平成28年度を振り返って

栃木県中学校長会長
宇都宮市立一条中学校長
半田 均



今年度もあとわずかとなり、各校長先生方におかれましては、卒業や進級、次年度の学校経営計画作成などに向けて、多忙な毎日をお過ごしのことと思います。

今年度4月、学校が新年度の教育活動をスタートさせた矢先に、熊本・大分両県において地震が相次いで発生し、被災地では大きな被害を受けた中学校がありました。防災教育の必要性を痛感させられた年度始めでありました。校長会として、義援金をお送りしたことを改めてご報告いたします。

さて、平成30年6月には関地区中研究協議会栃木大会が開催されます。今年度からの3年間は、校長会の組織力のもと、全校長の英知を結集して栃木大会の準備を進めることが大きな使命であり、4月には第1回の実行委員会を開催したところです。

今年度の本会の事業をふり返りますと、総会並びに研修会（5月）、理事研修会（4・7・11月）、研究大会（9月）、各専門部研修会、県教育長と小中高校長会との懇談会（6月）、県教委と小中学校長会との教育懇談会（8月）、県教委・県立高等学校長会との懇談会（10月）、関地区中長野大会（6月）、全日中宮城大会（10月）、理事・協議員研修会（2

月）等を実施しています。

進路対策部では、昨年度より第2回進路希望調査の実施時期について、県教委、県立高校校長会との検討を進めていただき、調査結果の発表を早めることが県教委より通知されたところです。

次に、研究発表関係では、関地区中長野大会の第4分科会「道徳教育」において栃木市校長会の皆様に、また、県中研究大会では、上都賀地区と那須地区の校長先生方にご発表いただきました。どの発表も地区校長会の組織を挙げて研究に取り組み、研究主題に迫る素晴らしい発表でした。こうした研究の成果を平成30年度の関地区栃木大会に生かしていくことが肝要と考えております。

なお、大会の全体協議題は、「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く人間を育てる中学校教育」です。全体協議題及び各分科会の研究の趣旨、視点については、他部に先行して組織した研究部において詳細に検討していただいております。1月に開催された関地区中理事会において内容等の承認を得たところです。今後は、研究推進とともに運営の詳細について検討・準備を進めますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

今後、中教審答申及び、次期学習指導要領の趣旨を十分に踏まえて、来年度の本会活動を推進していくことが求められます。引き続き、本会活動の充実のため協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、それぞれのお立場から本会を支えていただいたことに感謝申し上げます。

事務局だより

今年度も残すところわずかになってきました。3月には、千葉県より関東甲信越地区の役員及び事務局が引き継がれます。来年度、本県会長が関東甲信越地区中学校長会の会長に、事務局が関地区の事務局を兼務し、新たに本県から3名の幹事が選出されます。また、7月には本県で関地区の事務局長会、9月には関地区の理事会が開催されます。その他、

千葉市での6月の理事会、東京での12月の事務局長会、1月理事会を本県が主管します。

第70回関東甲信越地区研究協議会栃木大会も年度明け早々に各係も決まり動き出します。頻繁に会議等でのご協力をお願いすることと思います。関地区の運営及び栃木大会を成功させるためには、会員の皆様のご支援・ご協力が不可欠になりますので、なにとぞよろしくごお願いいたします。

（事務局長 片桐 晃）

県教委との教育懇談会

総務部長 柏崎 純一
(宇都宮市立星が丘中学校長)

平成28年8月4日(木)、宇都宮市のホテルニューイタヤにおいて、「県教委と小・中学校長会との教育懇談会」が開催されました。

小学校長会20名、中学校長会14名で臨み、県教委側は池田聖教育次長様はじめ19名の関係者に出席いただきました。小学校長会の高山裕一会長、池田聖教育次長の挨拶の後、総務部長の柏崎純一宇都宮市立星が丘中学校長が提案事項を説明しました。

【中学校長会提案事項】

1 現状を踏まえた教職員人材確保と教職員配置の改善

- (1) 少人数指導、児童生徒指導、不登校、指導法の工夫・改善等のための教員の加配拡充
- (2) 免許外教科指導及び臨時免許状対応解消のための非常勤講師の増員・配置
- (3) 正式採用教員の確保
- (4) 生徒指導上の問題など様々な課題を抱える生徒を支援するための非常勤講師の増員
- (5) 地域連携教員の配置に伴う円滑な実施に向けた支援と情報提供及び週休日における勤務(勤務態様)の明確化
- (6) 教育相談体制の充実・強化を図るためのスクールカウンセラーの勤務日の拡充

2 特別支援教育推進のための諸条件の整備

- (1) 特別支援学級担当教員の計画的な育成と配置
- (2) 障害者差別解消法の施行に伴う、発達障害のある生徒が在籍する通常の学級への非常勤講師増員
- (3) 通級指導教室への加配教員の増員

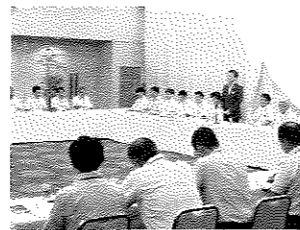
3 部活動の諸問題の解決に向けた取組の強化

- (1) 部活動担当教員の勤務環境改善のための社会体育の充実及び地域スポーツ指導者派遣等の一層の充実

4 その他

- (1) 県立高校入学者選抜の制度改革に対する成果と課題の検証及び情報の共有
- (2) 学力向上に係る施策の検証及び「とちぎっ子学習状況調査」の中学校全学年実施
- (3) 教職員の精神性疾患の未然防止のための対策の充実
- (4) 研修・出張旅費の確保と旅行命令に関する校長の裁量権の維持
- (5) 地域の給食提供事情を考慮した栄養職員の配置基準の引き下げ、及び栄養職員の配置増

県教委側からは本県の現状や展望を示しながら、国への要望や財政の許す限り努力する旨回答があり、有意義な懇談会となりました。



県教委・県高等学校長会との懇談会

進路対策部長 三田 進
(益子町立益子中学校長)

平成28年10月6日(木)、とちぎ青少年センターにおいて県教委、県高等学校長会と県中学校長会(正副会長、進路対策部長)が出席)との懇談会が開かれました。中学校長会から、以下のような要望について、県教委や県高等学校長会から一つ一つ回答をいただきました。そして、それぞれの立場における状況を交え情報交換を行いました。

1. 一日体験学習について

- (1) 当日の受付を、生徒個別にしてほしい。
- (2) 体験内容については、学校の良さがわかり、中学生に親しみを感じられるものにしてほしい。
- (3) 特色選抜への出願条件や入学者の適正等についても説明してほしい。

2. 入学者選抜の方法について

- (1) 一般選抜について
① HPでの発表も10時にしてほしい。

- ② 合格発表のメール配信をしてほしい。
- ③ 特色選抜内定発表から一般選抜の出願までの期間を長くしてほしい。

(2) 特色選抜について

- ① 資格要件を生徒に分かりやすくしてほしい。
- ② 多くの高校で学校作成問題を行ってほしい。

3. 募集方法について

- (1) 中高一貫校でも一般入試を実施してほしい。
- (2) 休日明けの入試は、極力避けていただきたい。
- (3) 遠隔地の場合の出願方法については郵送可としていただきたい。

4. その他について

- (1) 受験料の納付を、振り込み可能にしてほしい。
- (2) 県立と私立高校の調査書を統一してほしい。

県中学校長会からの「高校入試等における改善要望事項」について、県高等学校長会の取組状況や県教委の考えを聞き、意見交換をすることができました。それぞれの立場で、とちぎの子どもより良い成長を目指して努力していることが確認でき、有意義な懇談会になりました。

地区校長会だより

上都賀地区中学校長会

上都賀地区は、鹿沼市と日光市の2市で構成されており、県北から県央にかけて、栃木県の約3分の1弱の広さを占めています。この広範な地域に、鹿沼市10校、日光市15校、計25校の中学校があって、学級数24の大規模校から2学級(全校生徒4名)の極小規模校まで様々な規模の中学校があります。特に、日光市にはへき地の小規模校が6校あり、そのうちの4校が小中併設校という、他地区にはない特徴があります。

上都賀地区中学校長会の研修会については、4月に本地区小学校長会と合同の研修会を行います。研修会では、上都賀教育事務所長を招き「新年度にあたって」という題で、県教委や教育事務所の方針などについて、講話をいただいています。

また、本会では単独の研修会を学期に1回ずつ、年3回実施しています。今年度は、平成30年度の関東甲信越地区中学校長会研究協議会栃木大会の分科

会提案に向けて、特に重点を置いて研修しています。その分科会では、鹿沼市が「生徒指導」～豊かな学校生活を築き、自己実現を図る生徒指導の充実～について、日光市が「進路指導」～自己を高め、主体的に未来を切り拓く進路指導の充実～について、の2つの研究協議会を担当します。研修会では、このほか「学校経営の重点化構想と評価」についての協議や情報交換を行ったり、教育事務所から講師を招き、今年度を振り返って「学校教育の充実に向けて」や「上都賀地区の学校教育の現状と課題」について、講話をいただいたりしています。

年3回の研修会ですが、毎回、よりよい学校、よりよい校長会を目指して、中身の濃い充実した有意義な研修となっています。さらに、研修会に加えて懇親会もあり、会員同士の円滑な交流が図られ、親睦も深められています。本地区は学校間の距離が遠く離れていますが、会員同士の距離は近いものとなっています。

【日光市立栗山中学校長 福田 倫夫】

栃木市中学校長会

栃木市中学校長会は、栃木市、大平町、藤岡町、都賀町、そして西方町、岩舟町の合併・編入により、中学校14校で組織されています。毎月行われている小学校30校と合同の栃木市小中学校協議会研修会に併せて中学校部会を開催しています。

中学校部会では、毎回喫緊の課題の協議や生徒指導について、率直な情報交換を行っています。栃木市が関プロ大会で道徳を担当したこと、各学校での取組や「特別の教科道徳」を実施するにあたっての校長の役割についての議論はとても有意義でした。また、栃木市では、平成29年度より全ての小中学校が学校運営協議会制度を取り入れる予定になっています。そこで、各中学校長がそれぞれの学校経営方針を説明しあいながら、校長としての資質の向上に努めるとともに、地域社会との連携を大きな柱

の一つとした学校経営について協議も行っています。

その他、小中合同の栃木市校長会教育講演会を年1回実施しています。今年度は、元小学校長で特定非営利活動法人山本有三記念会会長の大家幸一先生をお招きし「山本有三の精神」と題して、ご講話をいただきました。栃木市立小中学校では、栃木市名誉市民である山本有三先生の「生命・人権・絆」を重んじる精神を根底に据え、児童生徒一人一人が“人としての生き方や在り方”を学ぶ時間の更なる工夫・改善に努めています。講演会を通じて山本有三先生の人となりや思想精神、業績をお聞きすることで、教育の在り方や今後の方向性等を確認することができ、思いを新たにしました。

このように、各中学校の特色を生かしつつ、栃木市立中学校としてのまとまりのある学校経営ができるよう和気藹々と会が進められています。

【栃木市立都賀中学校長 小林 勇夫】

那須地区中学校長会

本地区は大田原市9校、那須町3校、那須塩原市10校の計22校の中学校で組織されています。小中学校長会として小学校48校の校長とともに研修を進める体制が充実し、例年11月上旬に実施する全体研修会では、小学校市町ごと3部会、中学校1部会の計4部会に小中学校の校長が相互乗り入れをし、研究を深めています。歓送迎会や講演会も小中学校長会として実施し、講演会では今年度、元ペルー大使・元青年海外協力隊事務局長の青木盛久氏をお招きし、海外成年協力隊の派遣先での活躍や貢献についてお話しをいただき、認識を新たにしました。

さて、中学校長会の今年度の研究主題は、「社会を生き抜く力を身につけ、未来を切り拓く人間を育てる中学校教育」としています。その大テーマの下、幸いにも平成30年度の関プロ栃木大会で本地区が第1分科会「教育課程」及び第3分科会「健康・体力」の2つの分科会の担当となったので、それに向けて

研究を開始することとなりました。大田原市と那須町が合同で「教育課程」について「学校や地域の特色を生かした教育課程の編成・実施・評価・改善～地域の特色を生かした小中一貫教育の実践～」、那須塩原市が「健康・体力」について「体力の向上や健康の保持増進を図る体育・スポーツ活動の充実～主体的に体力向上に取り組む生徒の育成を目指して～」をテーマとしました。

7月29日実施の地区中学校長全体研修会において、テーマの共有及び研究の方向性の確認がなされ、その後、研修部を中心に研究を進め、11月4日に行われた先述の小中学校長会全体研修会で発表し、小学校の視点での意見もいただき1年目の研究を総括しました。

研修会での協議は、上記の研究推進についてが中心ですが、学校経営上の課題や悩みなどを共有する機会もあり、22名の校長が手を取り合って協力する体制が整っています。

[那須町立黒田原中学校長 渡邊 康成]

「頑張りの精神」、「懸命」、「協力」

真岡市立山前中学校長 秋山 弘道

私は、この4月に以前7年間お世話になった本校に再び赴任しました。現在、当時の保護者の方々が地域の重鎮として、当時の生徒の皆さんが保護者として、本校を支えてくれていることに日々感謝し、たくさんの「教え孫」（教え子の子ども）と日々一緒に過ごせることに無上の喜びを感じています。

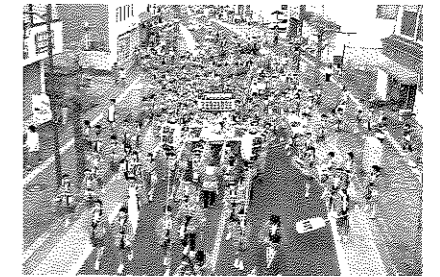
本校には、伝統的に「頑張りの精神」というものが受け継がれています。私は、この意味をより具体的に分かりやすいものになりたいと考え、校名に合わせて次のように捉えました。

「や」ればできる。先ずは行動することだ。
「ま」だできる。最後まで諦めないことだ。
「さ」らにできる。自分で限界を決めないことだ。
「き」っとできる。必ずできると信じることだ。

本校伝統の「頑張りの精神」を積極的に呼びかけ、しっかりと生徒に意識させるとともに、「懸命」に生きることの大切さを普段から強く訴えています。

「懸命」には、まず自分の目標を立て、次に目標の実現に向けて「一所懸命」にその時その場で、そして「一生懸命」に亀の如く地道に継続して、さらに「一緒懸命」に友達、先輩・後輩、家族等と一緒に「協力」して努力するという事です。生徒会活動では、昨年度から実践している「一笑懸命」に「笑顔を広げ伝統をつないで、よりよい山前中を築こう」と心がけ「協力」して生活するという事です。

「協力」とは、「一人一人の小さな力を合わせると、一つのとても大きな力となる」ということを意味しています。互いの存在を認め、互いの手を取り、互いの成長を願って、「頑張りの精神」で「懸命」に「協力」する生徒の育成を目指して、教職員一人一人の力を結集し、「協力」（組織力）をキーワードに各教育活動を推進しています。



真岡市夏祭りに全校生で協力

私の学校経営

地域とともに特色ある学校づくり

宇都宮市立上河内中学校長 山本 伸夫

本校で行われる教育活動で、他ではなかなか見られない取組を2つ紹介いたします。

1 天下一関白神獅子舞の学習

言い伝えによると、平安時代から伝承されている天下一関白神獅子舞が本校学区内にあります。平成15年度より、郷土の音楽を題材に和楽器を体験する音楽の授業を1年生で行っています。講師に、保存会の古橋正男さんをお願いをしています。1時間目に歴史、リズムや篠笛の練習を、2校時目に、太鼓と篠笛による発表会を行います。地域の伝統芸能に触れ、郷土への関心を高めるとともに、和楽器の演奏を通して、表現の能力が高まることを期待しています。



2 上河内地域学校園での取組

上河内地域学校園は、3小学校と1中学校で構成されており、さまざまな小中一貫の取組を行っています。小規模であることからできる取組として、中1と小5が合同で行う宿泊学習（冒険活動教室）があります。

2日目の夜に行われるキャンドルファイヤーでは、中学校の運動会で実施するダンスを中学生が小学生に教え、一緒に踊る活動を実施しています。また、3日目は小中合同の班を編成し、野外炊飯でカレーやピザなどを作っています。

これらの活動によって、中学生に自覚と自信を付けることを、また小学生の中学校入学への不安解消を図っています。

「明るく きびきびと活動する 温かい学校」

感動と感化の学校行事の継承

下野市立国分寺中学校長 齋藤 正明

私が目指す学校は、「明るくきびきびと活動する温かい学校」である。

「明るい学校」とは、生徒達が居がいのある充実した学校生活を送れる学校であること。「きびきびと活動する学校」とは、生徒が自ら考え主体的に活動する学校であること。そして、「温かい学校」とは、教職員が生徒に寄り添って指導に当たると共に、生徒がそのことを意識することができている学校であること。また、生徒同士や教職員同士がお互いに支え合いながら生活していることと捉えている。

特に、本校では「感動と感化の学校行事の継承」を合い言葉に、3年生がリーダーとなり、自ら考え自主的に取り組む行事を実践している。

合唱コンクールでは、3年生が下級生のクラスを回り、声の出し方や歌う姿勢などを丁寧に指導して大いに盛り上げた。

また、運動会では縦割りでも5つの団を結成し、マ

スゲームを創作して発表した。その時も、3年生が全ての動作を考え、約100名の団員が統一された動きが出来るよう指導して当日を迎えた。演技終了後は、感動と共に大きな拍手を受けることができた。

下の写真は、運動会終了後に行われた団ごとの反省会の様子である。団長を初め応援団員が一人一人それぞれの思いを涙と共に伝え、お互いの健闘を讃え合った。これらの活動をとおして、3年生はリーダーとして、1、2年生はリーダーの在り方を身をもって学び、一人一人がそれぞれの立場で成長を実感することができた。

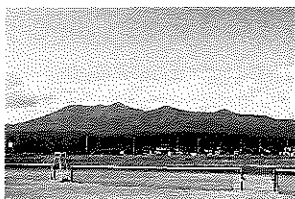


運動会終了後の反省会の様子

新任校長の一言

新任校長として

矢板市立矢板中学校長 小林 一 正



小学校の校長を5年間経験し、今年4月より矢板中学校に勤務することになりました。

出勤時には、雄大な高原山を正面に見ながら四季折々の山の景色に心が潤われています。矢板市内の小中学校の校歌の一節には、必ず「高原山」が登場するほど存在感の大きい山です。女流歌人の与謝野晶子は、高原山を「東北鉄道沿線最高の山容」と讃えたとされています。

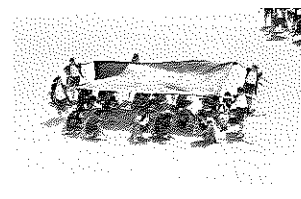
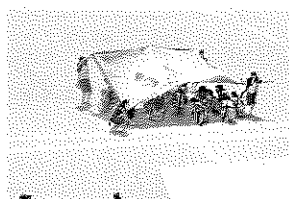
内川沿いの桜や校庭の樹木や草花が豊富で、恵まれた自然環境の中、雄大な高原山を間近に仰ぎ見ながら、全校生徒600名で今年度はスタートしました。

本校は、「自ら学ぶ生徒 思いやりのある生徒 たくましい生徒」の教育目標のもと、生徒会スローガン「Let's share happiness ～分け合おうみんなの手で～」を掲げ、生徒一人一人が母校や地域のために主体的にボランティア活動や清掃活動など、価値ある活動に積極的な取り組みを見せています。小学校での「あいさつ運動」や地域への花のプランター配布などを行うことで、地域の幸せのために取り組む

姿は、本校生徒の誇れる活動であると思っています。

また、生徒が主体的に取り組む学校行事の一つに運動会があります。その中でも、3年生を中心に希望者を募って行う「選抜ソーラン」は、保護者や地域の方を魅了させています。今年度は、同窓会とPTAの協力で創立70周年の記念品として、「法被200着」と「紅白の応援旗」をご寄贈いただき、演技に華やかさが増しました。運動会では、その法被をまとっての演舞に大変な盛り上がりを見せていました。また、紅白の応援旗には生徒会執行部のアイデアで「朱雀」と「白虎」をデザインし、応援合戦に花を添えてくれました。

来年度、創立70周年の節目の年を迎えますが、今まで本校が築き上げてきた歴史と伝統を受け継ぐとともに、更なる飛躍を目指し生徒と教職員が一丸となって「生徒一人一人が輝く、明るく楽しい学校」キラリと輝く矢板中学校を目指していきたいと思います。



「選抜ソーラン」のヒトコマ

懐かしの学校へ再び

佐野市立西中学校長 猿橋 誠

初めての小学校勤務を校長として3年間経験し、本年4月から再び中学校に戻ってきました。赴任した本校は、20年以上も前に、9年間勤務していた学校であり、感慨深いものがありました。

耐震化された校舎や校庭の木々の変化に時の流れを感じますが、生徒の気質は変わらず、元気な挨拶や諸活動に熱心に取り組む姿に、日々元気をもらっています。

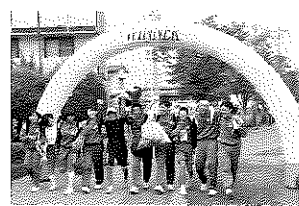
隣接する吾妻中学校の閉校に伴い、3年前から本校学区内小学校が4校から5校に増え、通学範囲が大きく広がりました。自転車通学者も多く、最も遠い生徒は、5kmを超える通学距離となり、交通安全指導に力を入れています。

その取組の一つに、「^{さんしゅうのじんぎ}三守人義プラス1^{わん}」というネーミングで一列通行、一時停止、左右確認そして絶対ダメ飛び出しを生徒に常に意識させています。

また、本校では西中三大大行事として春に運動会、

秋に日光例幣使街道物語、かえで祭（文化祭）が行われ、生徒にとって思い出深いものとなっています。

特に、日光例幣使街道物語は、今年で13回目となりますが、私にとっては初めての経験となりました。この行事は、本校の北側を例幣使街道が通っていることから、地域を見直す機会とすることや長い距離を歩くことで気力や体力を養う等を目的に行われています。現在は、群馬県太田市にある世良田東照宮を出発し、ゴールの学校までの約31kmの距離を歩いています。完歩率も非常に高く、交通指導にあたる保護者や地域の方々の声援を受けながら歩ききった後の達成感、生徒にとって何物にも変えられないものとなっています。



これまでの伝統を引き継ぎながらも、時代とともに変化を続ける西中学校。校長として勤務する今は、かつて勤務した頃に比べ、何倍もの大きな責任感を感じますが、精一杯努力していきたいと思っています。